ときの玉手箱

～博物館からのメッセージ～

第260回

井伊直幸、家格復興への思い

大名の身分序列を示すものに官位があります。官位とは、もとは古代の律令制下における官人の序列制度で、職（官職）と位（位階）からなります。江戸時代でも、官位は江戸城の席次、大名の序列を決定する重要なものでした。本来、大名の官位は家柄により固定的なものですが、勤功を賞しての昇進がしばしば行われ、大名から将軍側近らへの昇進願いが出されることもありました。

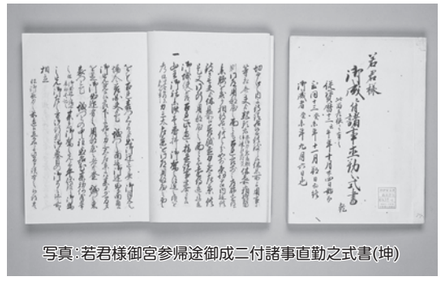
彦根藩井伊家10代当主直幸（1731～1789）は、家格意識が高く、他大名との序列をあらわす官位の上昇や、将軍家の儀礼で特別な御用を勤めることに腐心しました。直幸は、大老職を勤めた4代直興以降、その後の当主の官位が井伊家の家格に見合っていないとの認識を持っており、井伊家の家格復興への強い意欲から、井伊家とほぼ同じ家格の家である会津藩主松平容頌と官位昇進を競いました。

宝暦10年（1760）9月、直幸は、将軍の代理として上洛する「京都上使」を勤めました。この重要な役を勤めた褒美として、官位が従四位下侍従から従四位下左近衛少将へと昇進されました。実は、直幸は同年3月に京都上使役を容頌とともに勤めるはずでしたが、養父の重病のため役を返上していました。結果、容頌が先に少将に昇進して両名の序列が逆転したのです。その後、直幸も少将に昇進されたとはいえ、同格の家の大名に先んじられたことは、家格を重視する直幸にとって屈辱的なことであったと思われます。

容頌に官位を追い越された直幸は、次に官位昇進が可能な機会に、それを逆転すべく老中らに働きかけます。その機会となったのが、将軍家の跡継ぎ（若君）が宮参りした帰りに井伊家屋敷に立ち寄るのを迎えた御用（若君御成）でした（写真）。この御用は、徳川家筆頭家臣である井伊家のみが勤める役であり、直幸は老中松平輝高に働きかけて、容頌より上位の官位となる従四位上左近衛少将に昇進したのです。

直幸の官位は、最終的に正四位上左近衛中将にまで昇進しました。井伊家歴代は2代直孝の例により、この官位まで昇進できたからです。安永7年（1778）に正四位上に昇進したのは、家格の勤め向きを残らず勤め、50歳に達したからということですが、年齢が昇進の理由となるのは井伊家の先例にはなく、他家の実例を参照して老中らに願い出た結果のようです。

また、直幸は、幕府御用を記した「式書」の整備にも尽力しました。式書とは、井伊家当主が幕府行事に臨んだ際の行動記録です。行事ごとに当主の行為などを記録したもので、後代に同様の式に臨む際、先例として活用するために作成されました。江戸時代中期以降、幕府では大名の処遇など諸事にわたり先例を重視するようになったため、大名家側では熱心に先例を記録したのです。先例記録の蓄積は、家格復興の一環であったと考えられます。


写真：若君様御宮参帰途御成二付諸事直勤之式書(坤)

天明4年（1784）11月28日、直幸は大老職に就任しました。すでに前年、行事の際には江戸城内の老中の執務室「御用部屋」に入ることのできる「御用部屋入り」という立場に就いており、これは大老職の前段階とみなすことができます。大老職に就任した直幸は、4代直興が就いた家格にまで再び到達したという思いを抱いたことでしょう。

（彦根城博物館学芸員　太田黒真美）

写真の作品は、常設展示「古文書が語る世界」で、4月11日(水)～6月11日(月)まで展示します。（期間中無休）

博物館だより

彦根城博物館 ☎ 22-6100・FAX 22-6520
URL　http://hikone-castle-museum.jp/

開館時間　8：30～17：00（入館は16：30まで）

テーマ展

4月10日(火)まで

「柳桜をこきまぜて　―柳と桜のデザイン―」

「見渡せば柳桜をこきまぜて」というように、春を彩る花木として和歌にも詠まれた柳と桜。美術工芸品に見る柳と桜の競演をお楽しみください。

特別公開

4月13日(金)～5月8日(火)

「国宝・彦根屏風」

近世初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。

▲風俗図（彦根屏風）

ギャラリートーク　観覧料が必要
4月14日(土)　11:00～11:30、14:00～14:30
※事前申込:不要　場所:講堂・展示室1(講堂に集合)

常設展示の名品

― 常設展示の名品 ―

“ほんもの”との出会い

常設展示「“ほんもの”との出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。

4月11日(水)～6月11日(月)

「埋木象文硯箱（小川破笠作）」

埋木材（うもれぎざい）に金属粉を蒔（ま）き、色絵の陶板を嵌入（かんにゅう）して象の図柄を表した硯箱。箱内には、瓢箪（ひょうたん）形の硯と夕顔形の水滴が据えられています。

小川破笠は、江戸時代中期に江戸で活躍した漆芸師です。

埋木象文硯箱▶

■4月10日(火)～同12日(木)は展示替えのため一部閉室しています。

文化プラザだより

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター　☎27-5200（9:00～19:00）
インターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

チケット発売情報

9月16日(日) 13:30 / 16:30　グランドホール

しまじろうコンサート

「たんけん!うみのワンダーランド」

©Benesse Corporation／しまじろう

お子さまとしまじろうが協力して進む、参加型のストーリー！声を出したり、応援したりして、一緒に探検している気分で思わず夢中に！「ドレミのうた」など、おなじみの歌・ダンスがたくさん登場し、思いっきり体を動かしながら、全身で楽しめます。

【5月20日(日) 9:00～ 予約開始】
ひこね市文化プラザ特別価格 3,000円
指定
※3歳以上有料。3歳未満は保護者1人につき子ども1人まで膝上無料（席が必要な場合は有料）。
※友の会会員先行発売あり
詳細は当館までお問い合わせください。

エコーホール ピアノメンバー募集!!

エコーホールの優れた建築音響で、外国製フルコンサートピアノを使用した練習をしてみませんか（メンバー登録制）。

【登録期間】初回登録日～3月末日
【登録資格】小学生以上のピアノ演奏家、学習者、愛好者
※小・中学生は保護者同伴
【登録料】2,000円
【使用可能日】指定日の9：00～21：00（月に3～4回）
【使用ピアノ】スタインウェイ 274、ベーゼンドルファー D275
【利用料金】
1時間：3,500円、1時間30分：4,500円
2時間：5,000円、2時間30分：6,000円
3時間：7,000円
※ホール、空調、照明、ピアノ料金を含む
【申込方法】
ひこね市文化プラザに設置してある募集チラシよりお申し込みください。ひこね市文化プラザのホームページからもダウンロードいただけます。

【各公演 発売初日の予約の取り扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

◎表記のチケット価格は、全て税込価格です。

4月の休館日　2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)